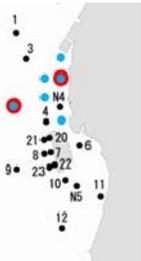


## 第 1 回 伊勢湾漁業影響調査委員会 指摘と対応

検討項目	指摘	対応
現地調査計画について	現地調査はいつまで実施することを考えているのか。	漁業及び漁業生物への影響を評価する上で信頼性が担保できるか、また、伊勢湾シミュレーターの再現性を確保するためのデータが得られているか、この2点を主眼におき、漁業者や委員会の意見等を聞きながら検討していく。
	伊勢湾における漁業で近年変化している状況があれば、教えて欲しい。	伊勢湾における漁業の現状や変遷について、資料にとりまとめた（資料2）。
	伊勢湾内に設置されている自動観測ブイや各県が実施している調査結果は積極的に活用し、今回実施される調査結果と合わせて評価の材料に使っていくべき。それでも足りない部分がある場合は、今後の調査の内容について本委員会で検討すべき。	本業務に関連する他機関等の調査結果については、情報収集し整理して活用していくこととしている。
	伊勢湾シミュレーターを駆動させるにあたり、基本的な情報は全てこの現地調査の中に入っているという理解でよいか。	技術的な視点で検証し調査項目を決めているため、そのような理解でいる。
	植物プランクトンはシアノバクテリアで代表するということだが、実際には他にもいる。ピコプランクトン=シアノバクテリアではないので、そこは注意して扱ったほうがよい。	No.1,8,14,18,55 の5調査点を対象にして、 <i>Synechococcus</i> sp.、ANF、HNF に区分した分析を四季で実施している。
	藻場の観測について、葉上動物は調査項目にあるが、付着藻類が調査項目に無い。藻場の生態系の調査としては、その部分が足りないのではないのか。	伊勢湾シミュレーターにおいて計算された結果と現地調査結果を確認し、調査の追加等について検討した上で、順応的に対応していく。
	動物プランクトンについて、伊勢湾シミュレーターでは動物プランクトンは貧酸素時には死亡する設定になっているため、貧酸素	現在のモデルにおいて動物プランクトンが貧酸素水によって死亡する過程が組み込まれており、詳細なモデル再現

	<p>化している部分の動物プランクトンも観測するようにしておかなくてはいけないのではないかと。</p>	<p>のためには必要な情報である。 夏季（9月）を対象にした現地調査時に、代表点（No.1,8,14,18）において溶存酸素量の鉛直プロファイルに応じた動物プランクトン調査を実施している。</p>
	<p>動物プランクトンはネット法と採水法は分けてやるのか、補足的に説明してほしい。</p>	<p>基本的にはネット法と採水法を分けて実施する。植物プランクトンの採水試料を用いて分析するが、調査後即時的に分析する等の配慮で補えると判断している。</p>
	<p>貝類の餌料環境を確認するため、名古屋港内にも動植物プランクトンの調査点を設けた方が望ましいのではないかと。</p>	<p>まずは名古屋港内のアサリ現存量を把握し、幼生の供給等について検討をする。その上で、さらにアサリの成長や肥満度等の情報が必要となった場合に、餌料環境の調査を検討していく。また、動植物プランクトンについて、名古屋港内で実施している他機関の調査結果について情報を収集していく。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 空港島周辺における底生生物、護岸生物等の生態系の機能を極力把握し、その機能が伊勢湾全体にどのような役割を担っているか意識して調査してほしい。</li> <li>▪ 中部国際空港西側の海域は漁業上、極めて重要な地点であるため、調査点の配置については適応的かつ柔軟に考えてほしい。</li> <li>▪ 中部国際空港は環境に配慮した形状になっている。その形状が変わった場合、生態系がどのように変化するのかを意識し、調査点の配置も順応的に検討していくということをお願いしたい。</li> <li>▪ 空港島護岸周辺の生態系の構造や物質循環の円滑さに関わる</li> </ul>	<p>空港島の西側については、空港島及び対岸部の護岸生物の調査点として3測線を設けた現地調査を実施しており、さらに、魚類の生息状況に関する情報の不足が想定されるため、補足的に魚類の出現状況を目視観察によって把握している。今後の調査結果及び伊勢湾シミュレーターによる再現結果を確認しながら、必要性について検討していく。</p>

	<p>調査結果は、委員へ極力早く情報提供していただき、意見を伺うようにしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ノリ漁場の定点調査について、空港島の西側に新土砂処分場を配置した場合、木曾三川の河川水が知多半島の西岸の先端の方へ届かなくなってしまう可能性がある。その影響を見るため、野間から内海にかけて調査定点が必要ではないか。</li> </ul>	
	<p>調査測点の追加や場所の変更については、極力充実した調査にしていいため、委員、専門員等と意思疎通を取りながら検討していく必要がある。</p>	<p>今後、委員会において議論頂き、順応的に対応していく。</p>
	<p>関連・重複項目の調査結果はうまく使うという表の整理があるとわかりやすい。各調査測点全部に統一の番号を振ってもらい、各調査点でどの調査を実施しているか、イメージが湧く整理をしてほしい。</p>	<p>ご指摘に沿って調査内容を整理し、調査地点毎にどのような調査が行われているかなどをわかりやすく一覧表等で表現した。添付資料に示すとおりである。</p>
	<p>今回は一連の調査で膨大なデータが出てくる。その中で評価や解析に関わる重要な部分については、節目節目で委員、専門員に示し考え方を聞きながら、無駄の無いように進めてほしい。</p>	<p>評価や解析に関わる重要な部分については、節目節目で委員、専門員に示し考え方を聞きながら進める。</p>
	<p>環境変化という意味ではフローの変化が重要になると思うので、そのようなとりまとめもあると良い。</p>	<p>ご指摘のとおり、フローの変化も確認できるとりまとめをする。</p>
	<p>空港島北側の浅海域で貧酸素水塊がパッチ状に時々出る。現在の地点配置でそれをうまく捉えることができるか。</p>	<p>以下のとおり、調査点を追加して、連続観測を実施した。8月までの調査結果は資料3に示すとおりである。</p> <p>追加点：右図の赤丸</p> <p>観測層：岸側は1層、沖側は2層</p> <p>時期・方法：他の調査地点と同様</p> 

	<p>空港島西側のかけ上がり部分は、その地形の特長を活かした漁業操業をしていると聞いたことがある。そのような漁業操業実態も記録していただきたい。</p> <p>空港島西側のかけ上がり部分を漁業者がどのように利用して操業しているか、そのようなことも加味した影響評価をすべき。</p>	<p>調査を進める中で、漁業者とコミュニケーションを取りながら情報を収集し、報告していく。</p>
	<p>仕様や規格にとらわれた数字の丸め方をせずに、なるべく出てきた分析数値を正確に出してもらえるように検討してほしい。</p>	<p>精度を損なわない範囲で、できる限り細かな数値まで提示する。</p>